

令和元年7月16日(火) No.439

からだを鍛え 心を磨く いつも仲間とともに 夢のある学校



里中だより

川口市立里中学校

川口市里621番地

TEL 048-282-5708

さわやか相談室 284-1010

1年213名 2年176名 3年179名

<http://www.sato-chu.com/>

「自分で考える」ことを「考えてほしい」

校長 高田 晶子

梅雨明けが待ち遠しい今日この頃となりました。

1学期のまとめの時期を迎えましたが、生徒たちの日々一生懸命な姿に元気もらっております。

学校総合の大会中は保護者、地域の皆様の大いなるご協力・声援に支えられ、各会場で選手たちの「里中生らしい」姿を感じました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



いよいよ夏季休業期間に入ります。1学期を振り返ってみますと学年行事を軸として教育活動を展開してきました。そんな中で、入学当初では「新入生」と呼ばれていた1年生もあっという間に「中学生」と呼ばれるようになり、好奇心旺盛の姿がとても好ましく、里中の中でも存在感が出てきました。2年生は、葛藤する自分自身と向き合う生徒が多くなってきました。これこそ中学校期の醍醐味です。親や先生を悩ませ大きく成長してください。3年生は、修学旅行のスローガンに掲げた通り、頼りがいのある存在に「飛翔」しています。そして、これからの進路実現は団体戦です。皆で頑張っていきましょう。

里中学校では、1学期間「自分で考える」ことの大切さを伝えてきました。人に決めてもらったことや指示されたことだけをやる生活では、自分の意志のない生活になります。何事にもそのことについて、「どのように考えたのか」と考えることを求めてきました。

絵本作家の安野光雄氏のエッセイに次のような言葉がありました。

最近「自分で考える」ということの意味が、とても深いような気がしています。将棋の棋士、藤井聡太さんを見て思ったことなのですが、将棋のさしかたなどは、勝つ方法がすでにどこかにあるのではないかと思うけれど、その一局は、過去の対戦とどこか共通点があったとしても、その対戦ごとに変化があり、違うものになるのです。まねしようと思ってもできるものではありません。常にあるものの中から選択するのではなく、ないものから生み出している。「自分で考える」という、その深さが違う、と思いました。

1学期の振り返りに、「自分で考える」ことをしたか、また、どのような場面で実践してきたか、思い返し考えてみてほしいと思います。2学期からは、自分の考えを表現したり、実行したりしながらより「自分で考える」ことを深く追求して行ってほしいと思います。

夏季休業中に入りますが、猛暑日が続くことが予想されます。十分な睡眠や水分補給を心がけお過ごしください。1学期間ありがとうございました。